

吉 祥 の し る し

雪 当 松 図 と

幸せ運ぶ アートの宝船

PRESS RELEASE

2022 12.1^{THU} → 2023 1.28^{SAT}



三井記念美術館
Mitsui Memorial Museum

国宝 雪松図と吉祥づくし

当館のコレクションを代表する国宝「雪松図屏風」を中心に、吉祥主題、すなわち長寿や子孫繁栄、富貴といった人々の願いを託されたモチーフが、どのように書画工芸へ取り入れられたのか、様々なジャンルの館蔵品をもとに通覧します。また新年らしく、寿老人や大黒天などの七福神をはじめとする、福の神にまつわる三井家ゆかりの品々もあわせて展示します。

展覧会名 国宝 雪松図と吉祥づくし

National Treasure *Pine Trees in the Snow* and Auspicious Arts

会期 令和4年(2022)12月1日(木)～令和5年(2023)1月28日(土)

開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(但し1月9日は開館)、年末年始12月26日(月)～1月3日(火)、
1月10日(火)

主催 三井記念美術館

入館料 一般1,000(800)円/大学・高校生500(400)円/中学生以下無料

※70歳以上の方は800円(要証明)。

※リピーター割引:会期中一般券、学生券の半券のご提示で、2回目以降は()内割引料金となります。

※障害者手帳をご呈示いただいた方、およびその介護者1名は無料です(ミライロIDも可)。

入館 予約なしで入館できますが、1階入口で消毒と検温をお願いします。37.5度以上の熱がある方は入館をご遠慮いただきます。入館にはマスクをご着用願います。また、展示室内の混雑を避けるため入場制限を行う場合があります。

会場 三井記念美術館 / Mitsui Memorial Museum

[〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2-1-1 三井本館7階]

東京メトロ銀座線「三越前」駅A7出口徒歩1分/東京メトロ半蔵門線「三越前」駅徒歩3分A7出口

徒歩1分/東京メトロ銀座線・東西線「日本橋」駅B9出口徒歩4分

メトロリンク日本橋(無料巡回バス)乗降所「三井記念美術館」徒歩1分

読者からのお問い合わせ先 050-5541-8600(ハローダイヤル)

ホームページ <https://www.mitsui-museum.jp>

その他 展覧会関連イベントについては、当館ホームページをご覧ください。

*開催内容を変更する場合がありますので、最新の情報は、当館ホームページまたはハローダイヤル(050-5541-8600)にてご確認ください。

報道関係の方からの
お問い合わせ先

三井記念美術館広報事務局 担当:富樫、松井 TEL:03-3237-3123 / 080-5443-1112
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-13 神保町MFビル701 E-mail:jtogashi@annex-inc.jp

展覧会の趣旨

江戸時代中期を代表する画家、円山応挙（1733-95）は、対象の写生をもとに「描かれたモチーフがその場に存在するかのような絵画」という新境地をもたらし、当時の京都を席捲するほどの人気を得ました。当館が所蔵する国宝の「雪松図屏風」は、応挙における写生の到達点とも言え、それゆえに「いかにリアルに描かれているか」といった迫真性や、奥行きを意識した構図など、空間構築性といった文脈で語られる機会が多い作品です。しかし、「雪松図屏風」が実生活において用いられる際、何よりも期待されたのは「おめでたい絵画」としての役割ではないでしょうか。「松」という主題の持つ永遠不変、長命といったイメージや、きらびやかな金泥や金砂子が演出する祝祭的な気分もまた、本作品を語るうえで欠くべからざる要素と言えます。

本展覧会では「雪松図屏風」を、お正月らしい鶴や七福神といった、縁起のよい主題の館蔵品とあわせて展示することで、「おめでたい絵画」としての一側面に光を当てます。また猫や瓜、牡丹など、あまり現代人には「おめでたい」イメージのないモチーフに関しても、かつてそれらが担っていた吉祥イメージを解き明かし、なぜおめでたいと見做されたかについて紹介いたします。何かと心の落ち着かない世情ではございますが、縁起物の描かれた作品の数々から少しでも、明日への活力を得ていただければ幸いです。

展示構成と主な出品作品

*: 広報用画像貸出作品

第1章 富貴の華

唐の皇帝・玄宗と楊貴妃が愛した逸話が示すように、牡丹は「百花の王」として中国の貴族たちに好まれた花でした。そうした伝統が日本にも輸入され、ある時は調度品や染織の文様として、またある時は絵画の主題として、多

様な姿で表現されています。本テーマでは、調度品や茶道具を中心に、人々の生活空間を華麗に彩った、牡丹の世界をお楽しみいただきます。



〔図1〕*
堆朱牡丹尾長鳥香合 明時代・15世紀



〔図2〕*
青磁浮牡丹文不遊環耳付花入
南宋～元時代・13～14世紀



〔図3〕
獅子牡丹蒔絵硯箱 江戸時代・18世紀

第2章 長寿と多子

医療が未発達な近代以前においては、長寿を保つことや、子宝に恵まれることへの祈りが、現代以上に切実なものだったことは想像に難くありません。また、自身やその子孫の立身出世もまた、当時の人々にとっては一家の存亡

にかかわる、大切な願いと言えるでしょう。本テーマでは、絵画・調度品にみられる様々な動植物の表現を通じて、そこに込められた願いについて探ります。

〔図4〕*

国宝 雪松図屏風 円山応挙筆
江戸時代・18世紀

本図の制作経緯を示す史料は未だ見つかっていないが、長生と永遠の象徴たる松が大きく描かれ、金泥できらびやかに彩られた画面からは、三井家のハレの日の中でもとりわけ特別な日に用いられたことが想像される。実際に明治20年(1887)には、明治天皇への献茶席にて使用された。



〔図5〕*
花鳥動物図より
藤花独猫図
沈南蘋筆
清時代・18世紀



〔図6〕*
花鳥動物図より
松樹双鶴図
沈南蘋筆
清時代・18世紀



〔図7〕
郭子儀祝賀図
円山応挙筆
江戸時代・
安永4年(1775)

〔図5〕

現代の日本人からすると特に縁起の良い絵画には見えないが、鍵となるのは花の下でまどろむ猫。中国において「猫」の字は、長寿を意味する「耄^{ぼう}」の字と発音が近いことから、縁起物として受容された。日本でもその影響を受け、富貴を意味する牡丹とともに猫が描かれる例は多い。

〔図7〕

中央に描かれる唐代の武将・郭子儀^{かくしぎ}は、長寿と多子の象徴と言える人物。80歳を超える長寿を保ち、その子孫がみな栄達を重ねたことから、縁起の良い画題として頻繁に描かれた。北三井家4代・高美^{たかはる}が、実弟の隠居を祝って応挙に描かせた特注品である。

第3章 瑞鳥のすがた

長寿の象徴として親しまれる鶴や、めでたいことの起こる前に姿を現すという鳳凰など、古来、おめでたいイメージが託された鳥は実在・非実在にかかわらず多くを数えることができます。また日本においては、和歌から「妻恋鳥」、すなわち夫婦円満の縁起物としてのイメージが付き

れたキジや、ミミズクをかたどった疫病除けの玩具「みみずく達磨」など、中国の「吉祥」概念とは異なる道筋で、縁起の良さを見出された鳥たちもままみられます。身近な鳥から幻の鳥まで、幅広い「縁起物の鳥」の世界をご覧ください。



〔図8〕* 重要文化財 玳皮盞 鸞天目 南宋時代・12～13世紀

中国江西省の吉州窯で焼かれた玳皮盞のなかで、内側に尾の長い鳥が描かれたものを鸞天目と呼んでいる。鸞は鳳凰の一種とされ、鳳凰が歳を経ると鸞になるともいい、中国の伝説上の霊鳥である。君主が徳をもって世を治めた時にのみ姿を現すとされる瑞鳥である。



〔図9〕* 東都手遊図 源琦筆 江戸時代・天明6年(1786)

現物の素朴さそのままに描かれた郷土玩具たち。北三井家7代・高就の誕生に先立って描かれた祝い品と伝わる。中央の「みみずく達磨」は当時、子供を天然痘から護るお守りとして好まれたもので、これから生まれて来る赤子への愛情が感じ取れる。



〔図10〕 百鳥図額 国井応文筆 江戸～明治時代・19世紀

燕、雀、文鳥、メジロ、セキレイなど50羽超の鳥たちが、横長の画面で列をなして飛ぶ。中心に大きく描かれた尾の長い鳥は、寿帯鳥と呼ばれ、サンコウチョウの一種がモデルとされる。長寿の寓意が込められており、東洋の花鳥画において伝統的な、縁起の良いモチーフの一つ。



〔図11〕 桜雉子蒔絵硯箱 江戸時代・18世紀



〔図12〕 鳳凰蒔絵太鼓胴 江戸時代

第4章 福神来臨

現代においてもお正月のテレビCMや年賀状などで親しまれる「七福神」ですが、中でも商売繁盛に結び付く大黒天・恵比寿の二神は、商家である三井家にとって特に重視されていました。同家の人々が収集した絵画や、江戸時

代の当主が自ら描いた作品などを通じて、愛好と信仰の一面を紹介します。また、これらの七福神に加え、館蔵の能面から福德神にまつわる作品もあわせて展示いたします。

[図13] *

七福神図 かのうおさきの 狩野養信筆
江戸時代・19世紀

お馴染みの七福神に、朝日、松竹梅、鶴亀と「縁起物の全種盛り」といった趣の一幅。表具を含めると横1m近くにもなる大きな作品で、大勢が集まる、正月の床の間を飾るにふさわしい。



[図14] *
重要文化財 はくしきじょう 翁 (白色尉)
(伝)日光作 室町時代



[図15]
重要文化財 さんぼそう こくしきじょう 三番叟 (黒色尉)
(伝)日光作 江戸時代

降臨した神々が、天下泰平・五穀豊穡を祈り舞う特別な演目『翁』で用いられる。主役の老翁がつける翁 (白色尉) [図14] は、顔は白く朗らかな笑みを浮かべ、品格高い相貌である。一方の三番叟 (黒色尉) [図15] は翁とは対照的で、顔は黒く上下の歯を見せ豪快に笑い、逞しさと親しみが感じられる。



[図16]
福祿寿図 円山応挙筆
江戸時代・寛政2年 (1790)

国宝 雪松図と吉祥づくし

展覧会広報用画像について

展覧会の広報用貸出画像データ/読者プレゼント招待券をご希望される方は、下記ご確認の上お申し込みください。

- * 画像は展覧会の広報用としての使用に限らせていただきます。展覧会終了後の利用、また二次利用はお断りしております。
- * 画像掲載にあたっては、【記載クレジット】を必ずご記載ください。
- * Webサイトで掲載の場合は、必ず画像にコピーガードをかけてください。
- * 読者プレゼントの際には作品画像を掲載し、展覧会会期中にご紹介ください。またお手数ですが、招待券プレゼントの受付・発送などは貴社、貴編集部にてお願いいたします。
- * ご掲載紙・誌等は広報事務局までご送付ください。

〔貸出画像リスト〕 作品掲載にあたっては下記の情報をご明記ください

図1	堆朱牡丹尾長鳥香合	明時代・15世紀	三井記念美術館
図2	青磁浮牡丹文不遊環耳付花入	南宋～元時代・13～14世紀	三井記念美術館
図4	国宝 雪松図屏風 円山応挙筆	江戸時代・18世紀	三井記念美術館
図5	花鳥動物図より藤花独猫図 沈南蘋筆	清時代・18世紀	三井記念美術館
図6	花鳥動物図より松樹双鶴図 沈南蘋筆	清時代・18世紀	三井記念美術館
図8	重要文化財 玳皮盞 鸞天目	南宋時代・12～13世紀	三井記念美術館
図9	東都手遊図 源琦筆	江戸時代・天明6年(1786)	三井記念美術館
図13	七福神図 狩野養信筆	江戸時代・19世紀	三井記念美術館
図14	重要文化財 翁(白色尉) (伝)日光作	室町時代	三井記念美術館
読者招待券	5組10枚まで受付	※申し込み受付は 2022年12月1日まで	

お申し込み方法

当館ホームページ「プレスの方へ」ページの申込フォームに必要事項を入力し、お申し込みください。
入力いただいたアドレスに広報事務局よりメールをお送りします。



三井記念美術館ホームページ「プレスの方へ」ページ
<https://www.mitsui-museum.jp/press/press.html>

プレス関係の方からの
お問い合わせ先 三井記念美術館広報事務局 担当:富樫、松井 TEL:03-3237-3123 / 080-5443-1112
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-13 神保町MFビル701 E-mail:jtogashi@annex-inc.jp